

1. データ入力に際して注意すべき事項

生成 AI を利用しデータを入力する際に注意すべき事項として、入力してはいけないものと入力する際に権利者の許可が必要な場合など注意が必要なものを区分して提示します。なお、(2)に関しては、権利を持つ第三者の許可が得られない場合、入力が禁止されることとなります。

(1) 生成 AI へのデータ入力を原則禁止

- ① 個人情報（個人情報については[こちら](#)）
- ② 学内の機密情報¹

(2) 第三者の権利を害する恐れがあり注意が必要なもの

- ① 秘密保持義務を課された秘密情報
- ② 第三者が著作権を有しているデータ（他人が作成した文章等）
- ③ 第三者が作成した登録商標・意匠（ロゴやデザイン）
- ④ 著名人の顔写真や氏名
- ⑤ その他、第三者の権利を害する恐れがある情報

2. 生成物を利用する際に注意すべき事項

生成 AI が生成した生成物を利用する際には、以下の注意事項を十分に理解してください。

- (1) 生成物の内容に虚偽が含まれている可能性がある
- (2) 生成物を利用する行為が誰かの既存の権利を侵害する可能性がある
 - ① 著作権侵害
 - ② 商標権・意匠権侵害
 - ③ 虚偽の個人情報・名誉毀損等
- (3) 生成物について著作権が発生しない可能性がある
- (4) 生成物を商用利用できない可能性がある
- (5) 生成 AI のポリシー上、生成物の利用に制限がある可能性がある

なお、上記事項は、生成 AI において入力した情報を学習させないための申請を行い承認された場合や会話履歴を保存しない設定に変更した場合であっても排除されません（類似の設定も含みます）。また、生成 AI と著作権や産業財産権との関係については、今後も変更される可能性があります。各省庁からの情報やニュース記事等を注視するようにしてください。これらの詳細について確認したい場合は、一般社団法人日本ディープラーニング協会が公表している「生成 AI の利用ガイドライン」もご確認ください。

¹ 機密情報とは、業務上知り得た内容や研究上のノウハウ等の職務で取り扱う情報のうち、秘密文書として管理される情報または直ちに一般に公表することを前提としていない情報をいいます。

埼玉大学教職員における生成 AI 利活用に関する留意事項（教育関係）

生成 AI に関しては、学生に対しても学習における利用時の留意事項を通知²しています。一方で教育を提供する側においても注意すべき点を理解する必要があります。以下、基本ガイドラインに示す内容のほか、教育において生成 AI を利活用する際の留意事項を示しますのでご確認ください。

1. 学生への明確な指示

学生に対しては、レポートや課題の作成時に生成 AI を利活用して良いかどうかは教員の指示に従うこととしています。その為、レポート等の作成を指示する際には、生成 AI の利活用を認めるのか禁止するのかについて明確に指示してください。なお、指示に従わなかった際にペナルティ³を与える場合は、その旨もしっかりと伝えてください。また、利活用を認める場合にあっては、利活用した生成 AI の種類やどの部分に生成 AI を利活用したかを明記しておくことが推奨されます。

2. 生成 AI 利用の判別について

現実問題として学生が提出したレポート等が生成 AI を利用したかどうかを確認できるのかという点があります。生成 AI が書いた文章かどうかを識別するための[ツール](#)も存在しますが、こうしたものであっても確実ではありません。学生が生成 AI の出力した内容を多少変更してきた場合にそれを見抜くことは難しく、仮に上記のツールを活用して生成 AI の利用が疑われたとしてもそれを断言することは困難であると考えられます。その為、次の対策もご検討ください。

3. 生成 AI 利用対策について

これからの教育現場においては、教員自らが生成 AI で出来てしまうこと出来ないことを理解し、注意喚起だけではなく課題の内容やその出題方法、成績評価の方法を工夫する必要があります。以下、対策方法を例示しますので参考にしてください。授業の内容に照らしてどのような対応が有効であるかは、先生方ご自身で検討し判断をお願いいたします。

² [令和 5 年 7 月 5 日付埼大教機第 26 号「学習における生成 AI の利用について（通知）」](#)

³ 指示に反して生成 AI を利用して課題を作成したときにその提出課題を成績評価の対象としないなど。

(1) 注意喚起の実施 ※⁴

- ① レポート等の内容を生成 AI で出力してそのまま使うことは、学生自身の学びにならないことを伝える。
- ② 生成 AI の出力内容をレポート等に利用することは、意図しない著作権侵害や盗用等に繋がるおそれがあることを注意する。

(2) 課題提示や出題方法等の工夫

- ① 教員自身が事前に課題を生成 AI に入力してみることでどのような出力が行われるのかを確認しておく。⁵
- ② レポート課題は、次回までの宿題とせずに授業時間中に教室で記述させる等の試験形式にする。
- ③ 提出されたレポートについて、教室で説明をさせた上で採点する。
- ④ 成績評価においては、レポート等の記入物だけでなく、テストや口述試験等を併用する。

4. 学生に伝えていただきたいこと

生成 AI は作業を効率化し、適切に利活用することで学習の質を向上させる可能性もあります。その反面、安易に利用することで、問題の設定、データや文献の収集、文章構成・表現等の作業を通じて得られるはずであった満足感や能力の育成を阻害する懸念もあります。その為、先生方から学生に対して生成 AI の利用に関する指示等をしていただく際には、こうした懸念がある事を改めてお伝えいただき、学生自身が考えるきっかけとなるように指導いただくようお願いいたします。

⁴ こうした注意喚起は、レポート等を指示する際に出すだけでなくシラバスにも明記したり授業初回のガイダンス等でも説明したり繰り返し伝達することが望ましいです。

⁵ ただし、生成 AI の種類（有料版か無料版か）やプロンプト（生成指示）により、出力される内容には差が生まれえることに留意する必要があります。

埼玉大学教職員における生成 AI 利用に関する留意事項（研究関係）

研究において生成 AI を利活用する場面も想定されます。以下、基本ガイドラインに示す内容のほか、研究に利活用する際の留意事項を示しますのでご確認ください。

1. 意図しない情報漏洩

生成 AI は、入力した内容を学習データとして収集し、その学習データをもとに回答内容を出力します。そのため、未発表の研究データを生成 AI に入力することで生成 AI の提供事業者のサーバにその情報が収集されることになります。そして、学習データとして利用されることで他の利用者への出力情報として未発表の研究データが提示される危険性がありますので十分に注意してください。

2. 学術雑誌の論文掲載ポリシーの確認

一部の学術雑誌では、生成 AI を用いて生成されたテキストや図・画像等を使用した論文を受け入れない方針を示しています。論文の掲載を想定している場合には、具体的な学術雑誌の論文掲載ポリシーを必ず確認してください。

3. バイアスや偏見に留意する

生成 AI は、様々なデータから学習するため、そこに含まれるバイアスや偏見も生成物の内容に反映される可能性があります。特に社会的に敏感なトピックや多様な意見が存在するテーマに関しては、出力された内容が適切であるか慎重に評価してください。なお、自身の入力した内容が生成 AI の学習に利用され、他人が生成 AI を利用した際にその学習された内容をもとにした回答が出力される可能性についてもご理解いただくようお願いいたします。

埼玉大学教職員における生成 AI 利用に関する留意事項（事務業務関係）

事務業務において生成 AI を利活用する場面も想定されます。以下、基本ガイドラインに示す内容のほか、事務業務に活用する際の留意事項を示しますのでご確認ください。

1. 事務業務において生成 AI を一切利活用しないという選択肢はない

書類作成、翻訳、アイデア提案等様々な事務業務⁶の支援に生成 AI を利活用することで、効率性や生産性の向上を図ることができ、作業時間の短縮だけでなく品質の向上も期待できます。情報漏洩等の注意すべき点はありますが、これからのデジタル化社会において生成 AI を利活用できることが重要な IT リテラシーのひとつであると認識し、生成 AI の基礎的な知識・能力等について理解し、積極的な利活用を検討してください。ただし、取り扱う情報の性質上、上長が業務利用を禁止した場合は、必ず従ってください。

なお、事務業務への活用事例は、業務効率向上 Tips も参考にしてください。

2. 生成された内容を必ず確認する

生成 AI が出力する情報は、基本ガイドライン 2. に記載された問題を引き起こす可能性があります。作成された文章を公開（通知文書の発出やメール送信、Web への公開など）する前には、内容に不適切な表現や誤りがないかを必ず確認してください。

3. 責任と倫理に留意する

事務業務において生成 AI を利活用した場合であっても、作成した文書の内容や品質については、当然その作成者や決裁者が責任を負います。その為、作成者自身がかかりと確認のうえ、その内容を理解し、生成 AI の出力した内容をそのまま使用するのではなく修正や加筆を行うよう心掛けてください。（生成 AI が作ったからといって、内容がわからないや自分には責任はないという言い訳は当然できません。）

4. バイアスや偏見に留意する

生成 AI は、様々なデータから学習するため、そこに含まれるバイアスや偏見も出力事項に反映される可能性があります。特に社会的に敏感なトピックや多様な意見が存在するテーマに関しては、出力された内容が適切であるか慎重に評価しましょう。生成された情報の検証や確認作業を行うことで、誤った情報の拡散や偏った意見としないことが重要です。

⁶ メールや文書のドラフトを生成したり、既存の文章の文法や表現の修正、ブレインストーミング、情報収集、論点整理などにも有効です。